

# 晩植情報

JA能美

第 1 号

令和元年6月17日

## 生育は良好、分けつ旺盛 中干しを開始しよう！

### ◆◇◆ 生育状況(6月7日現在) ◆◇◆

5月中旬以降、平年より気温が高く推移したため、1株当たりの茎数は平均11本/株と前年よりも多い状況となっています。

今後、分けつの発生が進みますので、中干し開始目安の茎数に達し次第、遅れずに開始しましょう。

### ◆◇◆ 今後の対策 ◆◇◆

#### 1. 中干しの実施

開始の目安は、坪60株植えて「1株当たり茎数が15本」

中干し期間	6月12日 ~ 7月8日頃 まで
-------	------------------

#### 2. 中干しの強度

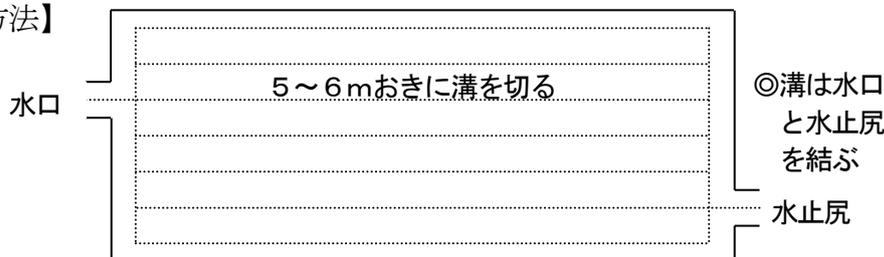
- 砂質田、低地力田：小ヒビが入る程度
- 普通田：田面にヒビが入り、少し足が沈む程度
- 粘質土、高地力田：大ヒビが入る程度

#### 3. 溝切りの実施

溝切りを行うことで、中干し時の排水や中干し後の間断通水が容易となります。

3日程度、田干しを行って、土を固め、5~6mに1本程度の割合で溝切りを実施しましょう。また、水がスムーズに流れるよう各溝の連結部分をつなぎましょう。

#### 【溝切りの方法】



### ◆◇◆ 病虫害対策 ◆◇◆

葉いもちの発生は、稲の生育ステージには関係なく、温度や湿度等の気象条件により発生します。苗箱施薬等の予防粒剤が散布されていない場合は、遅れないようにオリゼメート1キログラムを6月中旬までに散布しましょう。

また、病斑が確認された場合は、直ちにブラシン粉剤DLを散布してください。